

はじめに

この度、令和6年度から令和8年度までを計画期間とする「富士市第10次高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」を策定いたしました。目標とする高齢者像は、今までの計画を受け継ぎ「活力と魅力ある85歳」とし、その名称を『ふじパワフル85計画Ⅶ』といたしました。

本市においては、高齢化率が28%を超えており、2040年頃まで上昇していくことが見込まれる一方で、15歳から64歳までの生産年齢人口は年々減少することが予想されています。

このような状況下でも、高齢者がいつまでも住み慣れた地域で自立した生活を送るためには、高齢者自身が要介護状態になりにくくするようフレイル予防に取り組むとともに、地域での課題解決に向けた話合いの促進が重要であると考えております。

このため、本計画では、基本理念を『自立と支え合いを両立し、高齢者がいつまでも暮らし続けられる地域づくり』と掲げ、従来の「自立支援、介護予防・重度化防止の推進」「医療・介護の提供体制の整備」「認知症施策の推進」「緊急事態時の対応体制の整備」「地域包括支援センターの機能強化」に加えて、新たに「生活支援体制整備の推進」を重点的な取組として位置づけました。

本計画の取組により、医療、介護、介護予防、生活支援及び住まいの包括的な支援と、地域社会への参画体制整備などにより、「地域包括ケアシステム」の深化・推進を図り、ひいては「地域共生社会」の実現にまで広がることを期待しております。

結びに、本計画の策定に当たり、様々な視点からご審議いただきました「富士市介護保険運営協議会」の委員の皆様をはじめ、各種調査にご協力いただきました市民の皆様並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和6年3月

富士市長 小長井 義正

